

プログラム名	危険予知トレーニング
プログラム概要	危険予知トレーニングを通して、危険予知について学ぶ。
動機付け (なぜやるのか) ※まとめの項目含む	安全教育というと救急法等、事故対処トレーニングも必要です。しかし、傷病者が発生しないように行動できればそれに越したことはありません。各活動中にどんな事故が起こる可能性があるのか、どうすれば防げるのかをグループで話し合います。
場所	体育館・オリエンテーションルーム・研修室など
準備備品	KYTシートは班数分。PC、プロジェクター、スクリーンなど
手順(時間、進め方)	導入:ゲームを通して、身を守るトレーニングや、ヒヤリ回数を聞いたり、安全に関するヒアリング(ヒヤッとしたこと教えてください等) 展開1:班分けを行う。事前にヒアリングして、対象者の活動に沿った形が望ましい。紙を配って、シートの説明を行う。 展開2:各班ごとにグループワークで問題点を挙げる。(10分) 展開3:各班ごとの発見、学びを全員にシェアをする。(5分) 希望時間によっては展開2、3を課題を変えて再度実施する。 まとめ:各自が自分自身で危険を予知するようにしていこう。
安全対策の留意点	・長時間の場合には、水分・トイレ休憩を挟む。 ・心の安全の配慮。(仲間の言動や、ルール工夫、声かけの配慮)
持ち物	筆記用具
豆知識	◆子ども会危険予知トレーニングシートは著作権ものなので、資料として使う場合は出典を明示する必要がある。 ◆シェア時、危険予知トレーニングシートのデータをホワイトボードに映し出して、問題点を書き込むやり方もある。 ※当然ながら、プログラム担当者は安全に関する知識を求められる。子ども相手でも、質問に対して誠実に答えられるか。
導入などでゲーム 1 VS 全体	◆ジャンケン手たたき(危険に接したときの反射神経を鍛えよう) ◆カテゴライズ(好きなフィールドや、ヒヤリした経験など聞く。) ◆地蔵倒し(参加者側や運営側などいろんな視点があることを気づかせる)